

タイ国大学入学試験問題（日本語）における読解問題の分析

鈴木 由美子・内田 陽子

1. はじめに

筆者らは国際交流基金の専門家派遣プログラムにより、タイ北部地域における中等教育機関への日本語教育支援を主業務として行ってきた⁽¹⁾。学校訪問や巡回指導、教師研修などを通して現場のタイ人教師が直面する問題の一つに大学入試対策があることを知った。特に読解問題が難しいという声があり、『日本語 あきこと友だち』⁽²⁾と大学入試問題の橋渡しになるような読解教材を望む声もある。国際交流基金バンコク日本文化センターでは『日本語 あきこと友だち』の副教材開発をしている。2007年には「テスト問題集」が完成し、次の副教材として、読解教材を検討していた。その前調査として筆者らは大学入試問題の日本語読解問題の分析と日本語を学習している高校生へのサンプルテスト実施調査を行った。本稿はその分析と調査の結果である。

2. 大学入試科目としての日本語

タイ国大学入学試験科目として日本語が選択されるようになったのは、1998年度のことである。2005年度まではエントランスという呼び名で、10月と3月の年2回受験できた（2004年10月、2005年3月）。2006年度の入学者、つまり、2006年3月に実施されるものからアドミッションという新制度に変更になり、回数も年1回に変更になった。2008年度の実施で3回目となる。試験時期は3月初めで、一つの科目につき、2時間実施される。日本語も2時間である。全体の問題数は80問で、例年文法が50問程度で読解問題が30問程度の割合で出題されている。

日本語で受験ができるのは、マスコミュニケーション、社会学、政治学、行政学、法学、人文学・教養・文学の6つの学部で、2006年度、日本語を受験科目として採択していた学科は82学科であった。

3. 読解問題の分析

3.1 分析方法

大学入試問題の読解問題にみられる文章や設問の特徴を2004年度から2007年度までの4年、5回分の問題⁽³⁾を使用して分析した。まず、日本語読解学習支援システム「リーディング チュウ太」⁽⁴⁾を使い、文章の文字数と難易度を出した。また文章のタイプ、設問のタイプをそれぞれ分類し、そのタイプ別に設問数の集計を行った。

3.2 分析結果

3.2.1 文章分析結果

読解問題の文章の分析結果は表 1 の通りである。

表 1 文章分析

文章のタイプ	8 種類に分類 →作文、説明、会話、手紙、物語、アンケート、ポスター、メール
文章数	5～7 の文章題
文字数	一文章題あたり 160 字～500 字程度。平均 200 字程度。 読解全体では 1600～1900 字程度。
文のスタイル	丁寧体（表の中の文を除く）
語彙レベル	4 級レベルの語彙が 80%以上を占める。3 級と 2 級を合わせて 10%～15%。
漢字レベル	4 級レベルの漢字は 50%～60% 3 級レベルの漢字は 30%～40% 2 級レベルの漢字は 5%～10%。 全てにフリガナはない。 文章の中で漢字が占める割合は、10～23%。

文章のタイプの分類は、会話、手紙、ポスターなど文章形式から判断できるものとそうでないものがあつた。文章形式から判断できないものは、「私」という一人称の視点で書かれているものを「作文」、そうでないものを「説明文」という分類にした。

このように分類した文章のタイプ別に設問数がどのぐらいあるかを集計したのが下のグラフである（図 1）。これを見てわかるように、作文、説明文が非常に多くの割合を占めている。

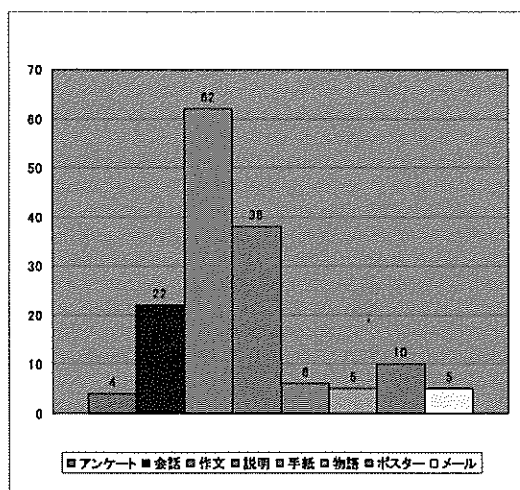


図 1 文章タイプ別設問数（2004 年度～2007 年度）

3.2.2 設問分析結果

大学入学試験の設問は 80 問である。そのうち読解問題の設問数は、平均して 30 問であり、一

つの文章につき 4～7 問の設問がある。また、これらの設問はすべて四択問題である。

まず、これらすべての設問をタイプ分類した。その結果は表 2 の通りである。

表 2 設問のタイプ分類

部分	漢字（書き）
	漢字（読み）
	語穴埋め
	指示詞内容
	文の言い換え（同じ意味の文を選ぶ）
	文穴埋め
	下線部内容質問
全体	内容質問
	内容正誤問題
	図選択問題
	スキヤニング
	推測（この後どうなるかを問う）

分類にある下線部内容質問とは、読解文章中に下線が引かれており、それに関する問いである。一方、内容質問の場合、読解文章中には下線はないため、全体から答えとなる部分を読みとる必要がある問いである。

設問タイプ別に設問数を集計したのが下のグラフである（図 2）。語穴埋め、下線部内容質問、内容質問、内容正誤問題の占める割合が多かった。

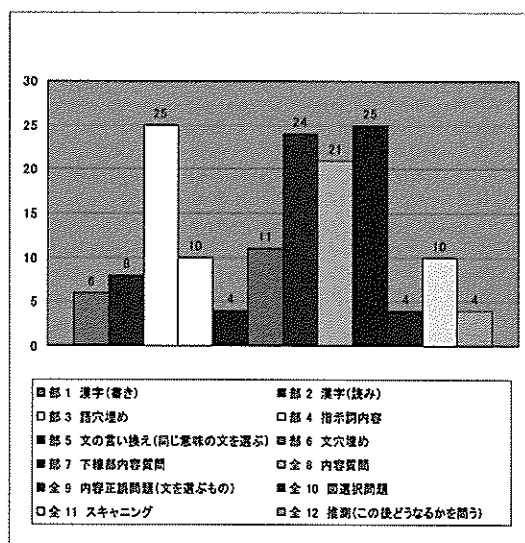


図 2 設問タイプ別設問数（2004 年度～2007 年度）

3.3 考察

文章は、いろいろな形式が使われているが、手紙、ポスターなど読み手がはっきりしているものに比べ、作文、説明文など読み手が見えないものが多い。説明文には、心理学、生物学などの

内容も含まれ、背景知識が必要なものも見られた。語彙、漢字は難易度から見ると初級の内容であり、難しいとは言えないが、トピックによっては読み手であるタイ人高校生の知識・情報とかけ離れている印象のものもあり、高校生にとっては難解であることが予想される。

設問は、バラエティー豊かであり、部分を問う問題から全体を問う問題と順を追って提出されている。ただ、読解力を問う試験であれば、漢字の読み書きを問う設問は不要なのではないかと思われる。

また設問自体が日本語で書かれており、また漢字にはふり仮名がふられていないため、本文読解力以外の力も必要である。特に、正誤問題に「正しくないものを答えなさい」というものがあり、選択肢文章を読み込む力が必要とされている。

4. 調査

4.1 調査内容

高校生が、大学入試問題における日本語読解問題のどこを苦手とするのかを知るため、分析結果を元にサンプルテストを作成し、日本語を選択している高校生にサンプルテストを実施した。調査の概要は以下の通りである。

期間：2007年12月上旬～2008年1月中旬

対象：中央部、北部、南部、東北部の高校3年生（351名）

実施内容：1) サンプルテスト（文法＋読解80問）を18校の高校で実施。試験時間は2時間。
2) アンケート（教員と学生）

4.1.1 サンプルテスト

分析で使用した過去の問題から、文法問題48問、読解問題32問の計80問を作成した。読解問題の文章題は全部で7題作成した。内訳は作文3、説明文、会話、説明、手紙、ポスターはそれぞれ1問ずつ過去問題から取り上げた。

実際の過去問題の傾向は、説明文の出題の割合が多いのだが、文章タイプによる得意不得意があるかどうかについて知るために、文章タイプのバリエーションを取り上げてサンプルテストを作成した。

また、設問のタイプも過去問題の傾向から、語穴埋め、下線部内容質問、内容質問、内容正誤問題を中心にとりあげた。

4.1.2 アンケート

学習者のプロフィールを知るため、以下の質問をアンケートにし、サンプルテスト受験者および日本語教員に答えてもらった。

(1) 高校生へのアンケート

- (a) 日本語受験予定
- (b) 大学での専攻
- (c) 学校以外での学習状況
- (d) 日本語能力試験 合格状況

(2) 教員へのアンケート

- (a) 使用教科書、試験実施時点での学習課
- (b) 学習コマ数
- (c) 大学入試対策有無
- (d) 大学受験に日本語を選択する学生の人数

4.2 調査結果

4.2.1 受験者（351名）のプロフィール

サンプルテストとアンケートを実施したのは、タイの高校 18 校である。これらの高校に在籍している日本語学習者数は 622 名であり、サンプルテストに協力してくれたのは約半分の 351 名である（図 3）。このうち、アンケートで実際に大学入試の際、日本語で受験することを希望しているのは 161 名であった。

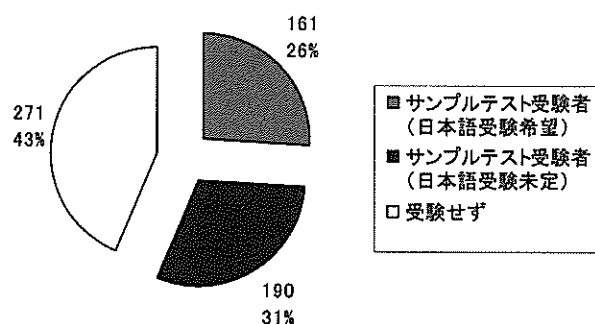


図 3 在籍日本語学習者 622 名の内訳

受験者 351 名のプロフィールを図 4、図 5 に示す。

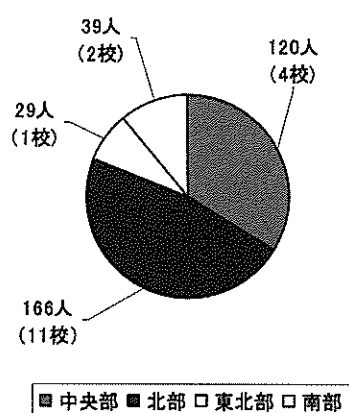


図 4 出身地域

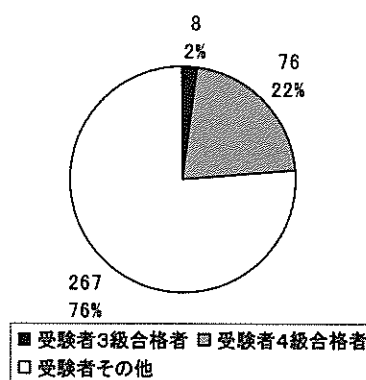


図 5 日本語能力試験合格状況

4.2.2 サンプルテスト結果

(1) サンプルテストの難易度

試験の結果を表 3 に示す。過去 2 年の大学入試試験（表 4）に比べると、平均点が若干高く、

若干やさしめだったと言える。

表3 サンプルテスト結果

	受験者数	最高点	最低点	平均点	標準偏差
全受験者	357	97.5	12.5	39.32	12.92
日本語受験希望	161	97.5	16.25	47.01	14.34

表4 タイ国大学入学試験の結果

受験者数		最高点		最低点		平均点		標準偏差	
2006 年度	2007 年度	2006 年度	2007 年度	2006 年度	2007 年度	2006 年度	2007 年度	2006 年度	2007 年度
2911	3418	98.75	98.75	11.25	11.25	37.22	35.52	17.87	16.95

(สำนักงานบัณฑิตแนะแนว.(2007) คู่มือเลือกคณะในระบบADMISSIONS'50.)

(2) 受験者のレベル

図6に日本語能力試験合格者との平均点比較を示した。平均点から言うと、サンプルテストの受験者で日本語で受験することを希望している学習者は日本語能力試験4級合格レベルと言える。

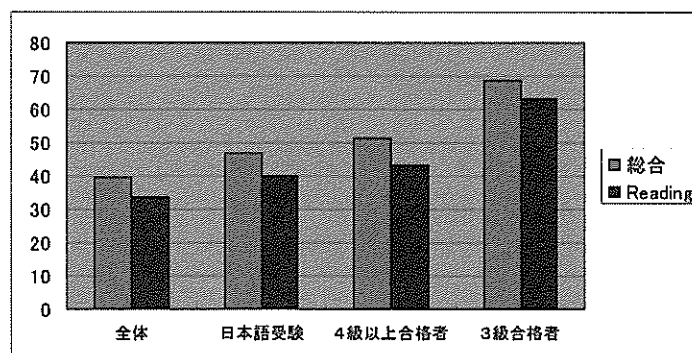


図6 平均点比較

(3) 文章タイプによる難易度

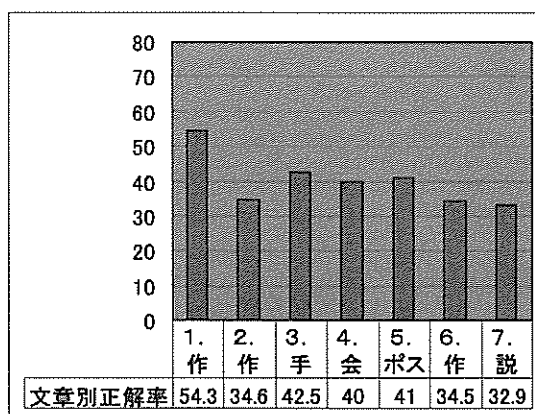


図7 文章タイプ別の正解率

グラフは全体的に右肩下がりになっているが、提出順に影響されている。つまり後の問題になればなるほど時間の問題で着手できないことを加味して考えなければならない。

ただし、提出順が2番であり文章量が少ないにもかかわらず、作文の正解率は低く、一方提出順に5番であるにもかかわらず、ポスターは正解率が比較的高い。

(4) 設問タイプ別の正解率

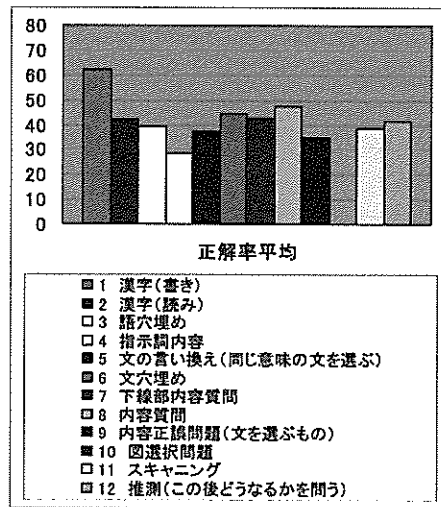


図8 設問タイプ別の正解率

平均してどの設問も40%前後の正解率である。その中で、漢字書き問題の正解率が60%以上と目立っている。一方、指示詞内容と内容正誤問題は30%前後と正解率が低いことがわかった。

また図9は、各設問の正解率を日本語能力試験4級合格者グループ、3級合格者グループと比較してみたものである。3級合格者グループは4級合格者グループよりも正解率が高いが、3級合格者グループの正解率が40%を切った設問は8問あり、そのうち6問が指示詞内容と内容正誤問題であった。このように指示詞内容、内容正誤問題は高校生にとって、難易度が高いといえるだろう。

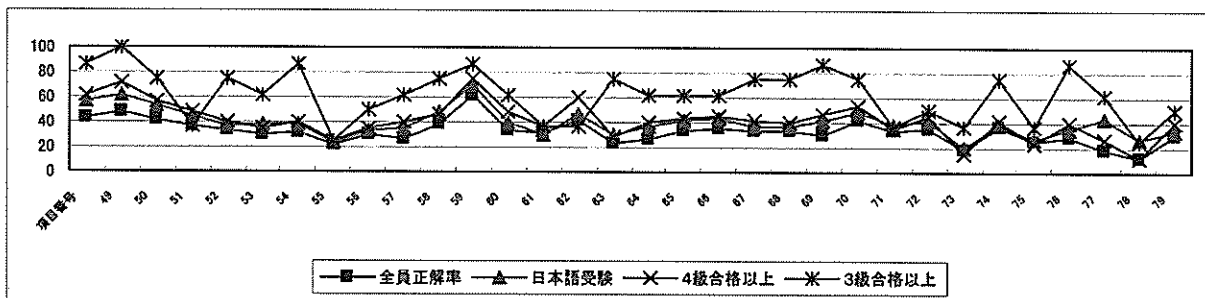


図9 設問(49番-80番)の正解率

さて、今回のサンプルテストに出題した2番目の文章題「作文」は提出順が早いにも関わらず、正解率が低かった。この文章題の設問4問のうち2問が指示詞内容と内容正誤問題という正解率

が低い設問であった。このことから、文章のタイプよりも設問のタイプが影響を与えて低い正解率が出たと考えられる。

特に指示詞内容を問う問題の正答率が低かったのは、文脈指示を問うような設問スタイルが日本語能力試験になく、学校や塾などで能力試験対策を行っていてもこの設問スタイルにはあまり触れる機会がないことが要因であろう。

5. まとめと今後の課題

『日本語 あきこと友だち』と大学入試日本語読解問題をつなぐ読解教材の開発のために行った分析、調査の結果、実際の大学入試問題の読解問題は文章に使われる語彙や漢字はさほど難しくなく、設問やその内容に難しさの要因があることが分かった。

例えば、心理学や生物学などのトピックが扱われていたが、実際に高校生がこれらの文章を日本語で読む必要は殆どないと思われる。タイの高校生が読む可能性がある文章とは何か。例えば、日本語の先生からの手紙、宿題やテストの指示、日本の高校生からのメール、インターネット上の日本文化の紹介、日本語の教室に張られている掲示板などが考えられる。

また、設問に関して、野田（2007）は『「読む」ための日本語教育を疑いながら検討しよう』において、「短い文章では読み取るべきポイントは多くない。問題をたくさん作ると、現実的でない、いじわるな問題が多くなる。それを避けるために、短い文章なら問題は1つか2つ、長い文章でも2つか3つというように、少なくしたほうがよい。読み取るべきポイントを絞り、たくさんの文章を読ませるようにすれば、必要な情報を早く見つけて、それを読み取るという現実的な「読む」コミュニケーション能力を高めることができるはずである。」（野田 2007: 14）と述べている。

教師へのアンケートから、大学入試対策は授業内ではできず、放課後や土日、クラブの時間を利用して希望者に対して行っていることが分かった。読解問題は教師にとっても難易度が高く、入試対策用の読解教材がないことから、時間的、心理的負担の大きさが伺えた。これは、高校の授業内容と大学入試問題の内容に差があることを示している。

大学入学試験問題は学生の能力を測るプレイスメントテストであると同時に、高校の読解授業の指針となる可能性がある。誰が何のために書いたのかが見える文章、そして実際に読む必要がある文章を取り入れ、書き手の意図を読み取る設問を出題してほしい。そのような大学入試問題が出題されることで、入試対策として行う授業が日本語を学習する高校生の読むコミュニケーション能力を高めるものになってゆくのではないだろうか。

注

- (1)内田・鈴木とも派遣先機関はチェンマイ県ユパラートウィッタヤライ学校である。内田（2007年4月から現在まで）、鈴木（2005年5月から2007年3月まで）

- (2) タイ人高校生向けの教科書。タイ教育省と国際交流基金の共同プロジェクトで開発され、2004 年に発行された。
- (3) 2007 年度、2006 年度の 2 回が新制度アドミSSIONの試験で、2005 年度（2004 年 10 月、2005 年 3 月）、2004 年度（2004 年 3 月）の 3 回がエントランス時代の試験である。
- (4) 東京国際大学 川村よし子氏、甲南大学 北村 達也氏による Web ツール。このうち「語彙チェッカー」と「漢字チェッカー」を使用した。 URL : <http://language.tiu.ac.jp/>

参考文献

- 国際交流基金（2006）『日本語教授法シリーズ第7巻 読むことを教える』、ひつじ書房
- 野田尚史（2007）「コミュニケーションのための日本語教育文法——日本語教育の常識を疑おう——」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第4号、国際交流基金バンコク日本文化センター、pp.1-18
- プラニー・ジョンスチャリトタム（2005）「Admission 制度（大学入学者選抜制度）」『タウン』36号、国際交流基金バンコク日本文化センター、pp.1-7
- สำนักงานบัณฑิตนิเทศน์.(2007) คู่มือเลือกคณะในระบบADMISSIONS'50. กรุงเทพฯ: ห้างหุ้นส่วนจำกัดรุ่งเรืองสาส์นการพิมพ์
- ดวงใจ จงธนากร.(2002) เคยสอบเข้ามหาวิทยาลัย วิชาภาษาญี่ปุ่น ภาษาญี่ปุ่น 日本語大学入試試験問題解答 ฉบับเดือนตุลาคม 2541-เดือนมีนาคม 2545. TPA School of Language and Culture

1 次資料

- คณะอนุกรรมการประสานงานการคัดเลือกบุคคลเข้าศึกษาในสถาบันอุดมศึกษา สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา (大学入試過去問題 2004 年 3 月、10 月、2005 年 3 月、2007 年 3 月)
- สถาบันทดสอบทางการศึกษาแห่งชาติ (องค์การมหาชน) (大学入試過去問題 2006 年 3 月)

